

1994年度日本気象学会総会議案

◎推薦による日本気象学会第28期理事の選任について
日本気象学会定款第14条および細則第6条の規定にもとづいて、先の選挙により当選した日本気象学会第28期理事候補者から理事長に対し、以下の会員を第28期理事候補として推薦する旨の報告がありました。つきましては、総会において、これらの理事候補者の理事への選任についてご審議いただくようお願いいたします。

○磯部 英彦

現在所属：気象庁予報部長期予報課

生年月日：1959年10月5日

推薦理由：磯部会員は予報部長期予報課において世界の異常天候の監視業務に従事し、天候の変化が社会へ及ぼす影響の評価を行い、成果を定期的に「天気」を通じて会員に伝える役目を果たしている。今後とも、地球規模の異常天候監視関連の準即時的な情報の充実について、学会への一層の貢献が期待される。また、磯部会員は学会運営の効率化・高度化に不可欠となったパソコン通信などの分野でも広い見識を有しており、学会活動への幅広い貢献が期待されるので理事として選任したい。

○斎藤 三行

現在所属：気象庁観測部統計室温暖化情報センター

生年月日：1950年1月20日

推薦理由：斎藤会員は観測部温暖化情報センターに所属し、温室効果気体等の観測およびその国際的な動向やそれらのデータの管理・提供体制等について広い知識を有している。また、地上気象、高層気象、レーダー気象等の観測法全般に

ついても実地の経験と卓抜した見識を有しており、大気科学研究の基盤となる各種観測の拡充について、学会のために貢献されることが期待されるので理事として選任したい。

○永田 雅

現在所属：気象庁予報部数値予報課

生年月日：1955年10月14日

推薦理由：急速に進歩しつつある数値予報は、気象業務と気象学の重要な接点の一つである。日本の気象学が均衡ある発展を遂げるために、数値予報分野から理事を選出することが望ましい。永田会員は、数値予報およびメソ現象の解析にも優れた研究実績を持っており、同会員の高い見識と経験は、学会運営にも有効に活かされることを確信する。

○中村 一

現在所属：気象大学校

生年月日：1949年7月24日

推薦理由：学会活動の重要な目的のひとつに気象知識の普及と気象教育の充実がある。中村会員は気象大学校に所属して気象教育に携わる専門家であり、一般の大学とは違った視点から学会の教育と普及の分野での活動への貢献が期待される。同時に、中村会員は過去4期にわたって常任理事を務め、この間、学会の事務局体制強化やパソコンの導入による会計事務等の効率化、学会活動の高度化に大きな役割を果たしてきた。新しい理事体制の強化のために、引き続き同会員が理事の職責を継続されることを希望し推薦する。

第28期役員候補者の当選辞退について

1994年4月18日

日本気象学会選挙管理委員会

委員長 長坂 昂一

先に行った日本気象学会第28期役員候補者選挙で当選した以下の3名の理事候補者から、人事異動に伴う所属支部からの転出を理由に、理事候補への当選を辞退したい旨の届け出があり、選挙管理委員会としてこれを受理しました。

- ・久保田 効 候補（北海道地区選出）
- ・里見 穂 候補（中部地区選出）
- ・山中 陸男 候補（関西地区選出）

これらの役員候補の補充については、次点者がいないため、日本気象学会定款および細則の規定にしたがい、第28期理事候補選挙当選者の推薦によって行われます。

1994年度日本気象学会総会議案（追加）

○日本気象学会第28期理事候補の追加推薦について

日本気象学会第28期理事候補選挙当選者から理事長に対し、以下の4名の会員を第28期理事候補として追加推薦する旨の報告がありました。つきましては、総会において、これらの候補者の理事への選任についてご審議いただくようお願いします。

○木田 秀次 現在所属：京都大学理学部 生年月日：1942年7月17日

推薦理由：木田会員は過去3期にわたって常任理事を務め、この間、学会の長期計画担当理事として、役員選任制度改革の実現に大きな役割を果たした。また、学会独自の気象技能認定制度の創設のための議論や、教育と普及関連活動の推進などにおいて木田会員の企画力と実行力は貴重なものであった。新しい理事体制を一層強化するために、引き続き同会員が理事の職責を継続されることを希望する。

以下の3名の推薦による理事候補者は、当選理事候補者の辞退を受け、選出支部から補充のための推薦があったもので、当選理事候補者の会議で支部からの推薦が妥当なものとして認められました。したがって、推薦理由は省略します。

○窪田 将

現在所属：札幌管区気象台
生年月日：1937年8月27日

○森 俊雄

現在所属：名古屋地方気象台
生年月日：1941年6月12日

○佐野 昭

現在所属：大阪管区気象台
生年月日：1936年4月27日

編集後記：天気編集委員会事務局の仕事のひとつに校正作業があります。校正ミスのない「天気」発行を目指してグラに目を凝らします。フロッピーディスクによる原稿の場合は、些細なミスはあまりありませんが、逆に一部分がごっそり欠落していることもあります。

まず、元原稿とグラを一字一句照合します。これだけで本来十分なはずですが、実はバグが残っていることがあります。そこで、今度は元原稿を離れ、グラを通読します。そうすると、日本語になっていない、つながりがおかしいというような疑問から、隠れていた

バグを発見できる場合があります。

著者校正の結果は重要です。しかし、事務局校正担当は「自分の原稿なんだから校正ももちろん完璧だろう」と考えたらいけません。「ここは違うのになんで気付けてくれないの」なんてブツブツ言いながら、また、少しばかり満足感を味わいながら校正作業を行うことになります。

校正の現場の雰囲気少しは伝わったかな。

(梶原 靖司)